

動きの面白さが分かる児童を育てる「多様な動きをつくる運動」の指導の工夫

— 感覚を意識することを重視した三段階指導を通して —

体育・保健体育班 新井 健一(小学校教諭)
指導者の課題

児童の実態

他の単元との組み合わせや補助運動として取り組んできたが、その運動を楽しむだけにとどまり、すぐに飽きてしまう。

個人が黙々と同じことを繰り返す
トレーニング的な学習形態に陥りがちである。

【研究のねらい】

多様な動きをつくる運動において、提示された動きをじっくり経験する、いくつかの動きを組み合わせた運動に取り組む、創造した動きを行うという三段階の指導によって、動きの面白さが分かるようになる（動きに興味をもって取り組み、そこで感じたことを言葉にできる）ことを授業実践を通して明らかにする。

1 動きをじっくり経験する段階

体のバランスをとる運動



長縄の上・平均台の上・さまざまな大きさの跳び箱の1段目を並べたものの上で、「歩く」「ミニコーンをまたぐ」「ボールを真上に投げながら歩く」といった不安定な条件を設定し、3つの動きを行う。

用具を操作する運動



カラーボール・ソフトバレーボール・ラグビーボール・フリスビーの四つを使い、「相手に向かって投げる」と「標的に向かって投げる」の二つの動きを行う。

89%の児童が用具の変化による動きの面白さを感じたり、気付いたりすることができた。

動きの面白さを感じたり、
気づいたりし、動くこと自体に
興味をもつことができる

2 いくつかの運動を組み合わせた運動に取り組む段階



動きをじっくり経験する段階で行った動きを組み合わせる。

(運動名)時に、(体のどこか)が(感じ)して、おもしろかった。
前回(運動名)時より、今回(運動名)のほうが(体のどこか)が(感じ)して、おもしろかった。

97%の児童が動きの面白さや変化を文章で表現することができた。

動きの面白さや感覚の変化に
気付き、それを文章で表現する
技能を身に付けることができる

体のどこか

- ・足首 ・ひざ ・こし ・あし
- ・下半身(こしから下)
- ・おなか ・かた ・うで ・手
- ・首 ・顔 ・頭
- ・上半身(こしから上)
- ・体全体

感じ

- ・ふらふら ・ふあふあ ・ふる
- ・ゆらゆら ・がくがく など

動きを経験したときの感じを文章にすると、文の型や使う言葉の例を提示する。

85%の児童が感覚を意識しながら、動きの面白さを言葉にすることができた。

動きに興味をもって
取り組み、そこで
感じたことを
言葉にする
ことができる

3 創造した動きを行う段階



行い方や面白さを紹介する

創造した遊びをする

行った遊びの面白さを伝える

創造した動きの行い方や面白さを紹介したり、行った遊びのおもしろさを伝え、交流したりする場面を取り入れる。

【成果】

- ・1の段階において、不安定さ・不確かさの面白さを感じたり、面白い動きとそうでない動きの違いに気付いたりすることができた。
- ・2の段階において、文の型や言葉の例を参考にし、感じたことを文章で表現することができた。
- ・3の段階において、交流場面を設定したことで、今までの学習を生かしながら動きの面白さを言葉にすることができた。

【課題】

- ・1の段階で、おもしろさの理由が曖昧な児童がいた。
 - ・2の段階で、型や例を参考にできなかったり、感覚の変化を明確に示すことができなかつたりした児童がいた。
 - ・3の段階で、今までの学習を生かしきれなかつたり、感覚への意識が高まらなかつたりした児童がいた。
- 感覚への意識が高まるような助言、交流場面で聞いた意見を自分の考えに生かすことの意識づけが必要。